



宝塚市立良元小学校 学校通信

良元通信

家庭数配布

みんなにとって良いことを みんなが元気になることを 令和5年(2023)12月22日号
校長 狩野 洋光

学校(子ども・職員)、保護者、地域をつなぐ

宝塚市の学校は、すべてコミュニティ・スクールを導入しています。先日の12月19日には、第4回の学校運営協議会を行いました。学校と地域がつながり合い、子どもたちのために何ができるか、どんな子に育ててほしいかについて協議を重ねてきた結果、今年度は、おそうじボランティアを募り、そうじを通して、子どもたちや職員との親交を深めていこうということになりました。



お試しとして、12月20日(水)のおそうじの日には保護者のみなさんに呼びかけたところ、約10名の方が学校に来てくださいました。ありがとうございます。

三学期は、通常のそうじの時間(13:00~13:20)を中心に、おそうじボランティアの輪を広げていきたいです。おそうじのついでに、休み時間の子どもたちの様子を見ていただくことも大歓迎です。学校と地域、保護者をつなぐことが目標です。ご興味のある方は、先日本配りしたチラシをご覧ください。どうぞ宜しくお願いいたします。

ウェルビーイングな学校づくりのために

幸せの要素のひとつとして「つながり」があります。良好な人間関係をつくること、つながりをもつことは、幸せを感じる要素のひとつです。教育改革実践家の藤原かずひろさんは、たての関係（親子、先輩後輩、先生と生徒）、よこの関係（生徒同士）だけでなく、ななめの関係（地域の人、近所の人）も大切だと言います。学校を介して多くの人がつながり、共助のコミュニティの中で、おおらかに子どもたちを見守り、子どもが育つ環境を整えていきたいと考えています。

「人は人を浴びて人になる」「教室はまちがうところだ」「みんなちがってみんないい」失敗しても誰かカバーしてくれる。おこりんぼさん、なきむしさん、ゆっくりさん、まじめさん、ふまじめさん、いろいろな人がいていい。そんな良元小学校、地域であってほしいと願っています。

幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」

2018年文科省より、幼稚園・保育園・こども園にとっての共通の指針が示されました。

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧量・図形、文字への関心・感覚
- ⑨言葉による伝えあい
- ⑩豊かな感性と表現

幼児教育の現場では、これらの指針をもとに、様々な活動に取り組んでいます。教育学者の汐見稔幸さんは、この中で、とくに大切なものは「自立心」だと説明しています。主体的に「やりたい」と思う気持ち、さまざまな力を身につける土台になっていきます。また、元東京都麹町中学校長の工藤勇一さんは、日本の教育は、子育ては、子どもたちの「自立心」を奪ってきたのではないかと説明しています。ひとことという「手をかけすぎてきた」です。失敗しないように、大人が先回りするのではなく、子どもに自己決定させる経験、失敗して試行錯誤していく経験がなにより大切なのではないのでしょうか。学校の取り組みもアップデート中です。（また、詳しく紹介させてください）